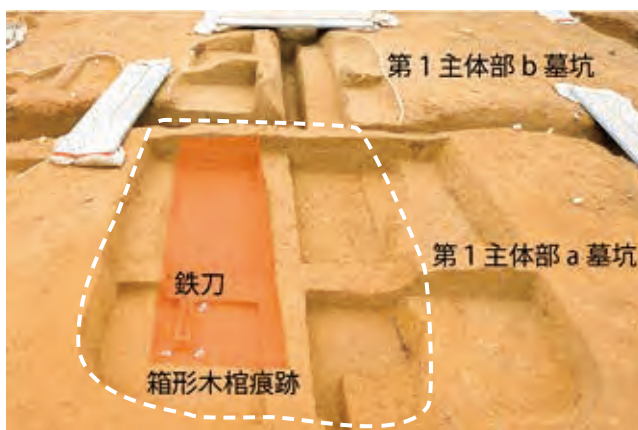


弥生時代後期の墳丘墓と 新たに発見された高地性環濠集落



1号墓と竪穴建物の全景（南東から）



1号墓第1主体部 a (南東から)



鉄製短刀（全長 30.6 cm）

観法寺墳墓群は、金沢市北部の森本丘陵西端に立地する遺跡です。2年間にわたる調査により、河北潟や森下川を望む舌状に張り出した尾根上に、溝で区画された弥生時代後期後半～終末期頃とみられる方形の墳丘墓が8基築造されていたことがわかりました。中でも1号墓は、四隅突出型墳丘墓という長方形の墳墓の四隅が張り出した、県内でも数少ない形の墳丘墓になる可能性があります。この地域の有力者が葬られていた墓とみられ、今後、他地域との関係や築造の背景などを詳しく調べていく必要があります。

また、墳墓群だけでなく、丘陵斜面に断面V字形に掘られた環濠という集落を囲む溝の一部や竪穴建物1棟、大型土坑11基が見つかり、県内でも数少ない弥生時代後期後半頃の高地性環濠集落の存在が、金沢市北部で初めて確認されました。

R4 発掘調査

かんぼうじふんぼくろ かなざわし
観法寺墳墓群 [金沢市]

1号墓は、全長約 14 m×12.5 mの四隅突出型墳丘墓とみられ、複数の埋葬施設（主体部）がみつかりました。全長 2.7 mの第1主体部 a からは鉄製短刀が、全長約 6.5 mの第1主体部 b からはガラス製小玉・碧玉製管玉の副葬品が木棺痕内から出土しました。

1号墓東側に約 6.9 m×6.7 mの隅丸方形の竪穴建物が1棟みつき、4本の柱穴や焼土と灰が残る炉跡、壁溝を検出しました。弥生時代後期後半頃の土器や鉄鏃、砥石、碧玉の石器片が出土、玉製品を製作した可能性があります。

尾根上部から斜面にかけて、竪穴状に深く掘られた大型の土坑を11基確認しました。規模は径約 2～5.5 m、深さ約 1.5～2.5 m、平面形態も円形・隅丸方形・方形と様々で、底に壁溝を持つものが多く、貯蔵穴の可能性を考えています。

7号墓北側斜面で断面V字形の溝を確認しました。集落を囲むように掘られた環濠と呼ばれる堀状の溝の一部で、上幅約 6 m、深さ約 3.5 mの規模とみられます。溝下層からは弥生時代後期後半頃の土器が出土しました。



四隅突出型墳丘墓とみられる1号墓全景（北東から）



1号墓第1主体部 b の木棺痕（南東から）



弥生時代後期の竪穴建物全景（北東から）



尾根上の大型土坑群（東から）



大型土坑全景（東から）



環濠の掘削作業（南東から）

R4 発掘調査

ひとつはり いせき こまつし
一針 C 遺跡 [小松市]

一針 C 遺跡は、^{かほしがわ}梯川右岸に位置する集落遺跡です。梯川の改修工事に伴い平成 25 年度から発掘調査を行っています。令和 4 年度秋期調査は 10 月に着手し、春期発掘区域の下層遺構の調査を行いました。

上流側の P 3 区は春季調査区の南に隣接し、弥生時代中期の集落を囲んでいた環濠^{かんこう}の延長を確認しました。またその東岸に 7 世紀代と考えられる建物もみつかりました。

R・S 区では、平安時代前期に埋積した 2 本の川跡がみつかり、これらが南から北に分流していたと思われます。2 本の川に挟まれた場所に弥生時代中期から古墳時代前期の生活跡がみつかりました。弥生時代中期の遺構は、管玉製作に関わる焼けた大きな穴や粘土を採掘したような大きな穴などがあり、弥生時代後期にも大きな穴がいくつもみつかりました。建物は検出できませんでしたが、平成 27 年度調査でみつかった遺構の広がりと考えられます。古墳時代前期には、竪穴建物や井戸跡などがみつかりました。このような成果を得て、平成 25 年度からの一連の現地調査を完了しました。



P 3 区 弥生時代環濠の掘削



P 3 区 7世紀の掘立柱建物



調査区域を梯川下流側から見る



R・S 区 川跡 (NR06) の掘削



R・S 区の全景 (真上から俯瞰)

R5 発掘調査

令和5年度発掘調査と出土品整理

令和5年度は、6件 10,600㎡の発掘調査と、23件の出土品整理を予定しています。

【発掘調査】

県土木部事業が5件、県教育委員会事業が1件となります。

昨年度からの継続事業は、輪島市宅田上野山遺跡、志賀町倉垣遺跡、七尾市矢田遺跡、金沢市大場遺跡の4件、新規調査は珠洲市馬縹泊遺跡、七尾市古府・国分遺跡他1遺跡の2件です。

今年度は、加賀地区の発掘調査の依頼はなく、金沢以北に現場が集中する状況です。

発掘調査風景（七尾市矢田遺跡）



事業者	事業名	箇所	遺跡名	時代	種別	予定面積 (単位㎡)
土木部	国道改築事業 一般国道249号(輪島バイパス)	輪島市	宅田上野山遺跡	縄文～近世	集落跡	3,960
	県単道路改良事業 一般県道羽咋田鶴浜線	志賀町	倉垣遺跡	弥生～古代	集落跡	370
	主要地方道大谷猿畑飯田線	珠洲市	馬縹泊遺跡※	奈良・平安	製塩遺跡	200
	街路整備事業 都市計画道路外環状線	七尾市	矢田遺跡	弥生～中世	集落跡	1,400
	能登歴史公園(国分寺地区)	七尾市	古府・国分遺跡他1遺跡※	奈良・平安	集落跡	190
教育	いしかわ特別支援学校高等部新校舎整備事業	金沢市	大場遺跡	古墳～中世	集落跡	4,480
計 (6件、※新規2件)						10,600

【出土品整理】

北陸新幹線建設に伴う発掘調査の整理を中心に、国土交通省関連事業等を含め、整理箱数で千箱を超える作業を計画しています。

土器や木製品等の記名・分類・接合、実測・トレースのほか、発掘調査報告書の作成と刊行を行います。



発掘調査風景（輪島市宅田上野山遺跡）



発掘調査風景（七尾市矢田遺跡）



土器の接合作業



木器の実測作業

R4 調査研究

環日本海文化交流史調査研究事業『古墳時代の水のマツリ』

令和5年2月24・25日、主に日本海沿岸域に共通するテーマで各地域と調査・研究を行い交流を図る「環日本海文化交流史調査研究集会」を開催しました。この研究集会は平成12年度から実施しており、今回で23回目の開催となりました。

今回の研究集会は、古墳時代の水にかかわる祭祀に焦点を当て、北陸4県に加え、山陰、近畿、東海の研究者との共同研究として、令和3年度からの2カ年で実施しました。各地域での基礎研究を持ち寄り報告・討論する研究集会は、3年振りに対面形式での開催となりました。



研究集会1日目 会場の様子

研究集会1日目は各地域の概要報告がありました。新潟県では、佐渡島の木樋が出土した蔵王遺跡や槽付木樋が出土した東沢遺跡などが紹介され、富山県では井戸や流路での祭祀行為が中心であることが報告されました。石川県では、導水、湧水、流路、その他の4つのパターンが存在すること、福井県では、井泉や河川跡から豊富な木製品が出土した河合寄安遺跡を奈良県布留遺跡と対比し、その統治構造についての考察が発表されました。

さらに、京都北部及び兵庫北部（丹後・但馬）では、兵庫県古殿遺跡や京都府浅後谷南遺跡の流路内祭祀の状況や古墳祭祀との関わりなどについての言及がありました。山陰・中国地方では、首長層が主導した地域経営の一部として水辺の祭祀を捉え、鳥取県大桧遺跡や島根県石田遺跡などが紹介されました。東海

地方では、著名な三重県城之越遺跡に代表される、水源・湧水点の祭祀を中心に、祭祀を類型化し、それぞれの事例について解説がなされました。近畿地方では、奈良県纏向遺跡や南郷大東遺跡、滋賀県服部遺跡などの導水施設を中心に、周辺遺跡や大王権との関わりについて紹介されました。

対面での議論は否応なく熱を帯び、参加者一同が熱心に聞き入る、活気溢れる集会となりました。

2日目には資料検討会を実施しました。加賀



研究集会1日目 討論の様子

市八日市遺跡、小松市千代・能美遺跡、金沢市畝田遺跡、七尾市矢田遺跡出土の木製品を前に、わずか2時間半ほどの会でしたが、第一線で活躍される共同研究者の方々の遺物を観察する視点、高い見識に触れることができる貴重な時間となりました。



研究集会2日目 資料検討会の様子

R4 古代体験

『古代のはたおり体験』

令和5年2月25日(土)～3月12日(日)の期間、体験工房で「古代のはたおり体験」を行いました。期間中は小学生から一般の方まで40名以上の方がセンターを訪れ、高機たかぼたを用いた機織りはたおりに挑戦しました。

この体験は、毎年2～3月に行っているものです。実際に、古代から使用されている高機を使用した布作りを行うことで、古代の布づくりに関する技術への理解を深めることを目的としています。

体験では高機を使用し、およそ1時間かけて10cm四方の布を織ります。参加者は、初めは高機の操作順序に苦戦し、場合によっては糸切れなどのトラブルに対処しながら、最後には素敵な作品を織り上げていました。



横糸を通す様子



箒(おさ)を打ち込む様子



完成した作品

R4 古代体験

『いろ・色・まが玉づくり』

令和5年3月13日(月)～3月26日(日)の期間、体験工房で「いろ・色・まが玉づくり」を行いました。期間中は小学生から一般の方まで、およそ500名の方が体験に訪れました。

この体験は、主に縄文時代～古墳時代に使われた装身具の一種である「まが玉」を製作し、古代の装身具づくりの技術について理解することを目的として、毎年3月に開催しています。

体験者は、センターで通常行っている「まが玉づくり」体験の材料より大きい、3色(黒・ピンク・白)の石材から1個を選んで“特製まが玉”を作りました。通常より大きめの滑石のため削る時間は長くなりますが、皆さん一生懸命に整形し、素敵な作品に仕上げていました。



体験の様子



まが玉の整形



完成した作品

R5 古代体験

『手形・足形づくり』

令和5年4月29日（土・祝）～5月7日（日）のゴールデンウィーク期間に、恒例となった未就学児を対象とした手形・足形づくりのイベントを行いました。

この体験は、縄文時代に新潟県から北海道にかけての地域で出土した「手形・足形付土版」をモデルにしています。かつては、乳幼児の手や足を粘土板に押し付けて焼き上げたものを作り、まじない用の護符として身に付けていたといわれています。生きることが大変な時代ではありましたが、子を思う親心の深さを感じずにはられません。

体験者の数は、374名と昨年を下回りましたが、家族で訪れた来館者が多く、大変にぎやかな期間となりました。また、5月1日に手形・足形の体験に訪れた家族が、開館以来の35万人目の来館者となったことは、このイベントに花を添えました。

実際の作品づくりでは、幼い子どもの手をしっかりと押さえて手の形をつけたり、足形を取るために苦労して抱きかかえたりする様子の他、丁寧な文字彫りやひび割れを修復して美しい仕上がりを期待する家族の方々の微笑ましい風景が見られました。

概ね好天に恵まれ、たくさんの笑い声に包まれた9日間となり、お世話にあたった職員も幸せに満ちた時間を過ごすことができました。

なお、仕上がった作品は、乾燥後何回にも分けて焼成し、体験した皆さんへ返却を行いました。



35万人目の記念品贈呈



足で踏みつけてね



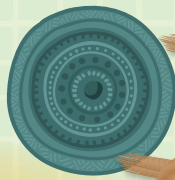
手の跡をしっかりとつけよう



きれいに仕上げるぞ



焼きあがった手形・足形



まいぶん日誌

令和5年(2023)

3月～6月



3月

講座「鉄器づくり」

速報パネル展

今年は3月に桜が満開です

初めての鍛冶体験！
だんだん上手になってきた



園児達が花見に
来てくれました！



令和4年度の調査成果です

今年も
施設見学がはじまりました

ゴールデンウィーク人気企画
「手形・足形づくり」

4月

県指定文化財
珠洲市野々江本江寺遺跡出土
「板碑、笠塔婆」春期公開

実物を間近に見てください



5月

うまくおせたよ



休止していた
火起こし体験が復活！



講座「縄文土器づくり」



天気の良い日に
野焼きです



縄文住居の前で記念撮影

縄文人の暮らしにふれよう

きれいに焼きあがりました！



出前考古学教室



講座「弥生土器づくり」



6月

まいぶん田んぼで
田植えを行いました



手形・足形 きれいに焼けました

大作ばかり！

